

① 訃報 平成 25 年 9 月 7 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

12 文乙	前田 卯一郎	平成 25 年 8 月 31 日	東京都渋谷区
15 文甲	谷川 健一	平成 25 年 8 月 27 日	川崎市麻生区
21 文甲 2	岡崎 守男	平成 25 年 9 月 28 日	横浜市港北区
21 文甲 2	藤田 一良	平成 25 年 8 月 17 日	宝塚市
21 文乙	林 利孝	平成 25 年 9 月 18 日	吹田市

② 住居・勤務先変更 平成 25 年 9 月 7 日以降

21 文甲 2 岡崎 守男 遺族 岡崎 純  
〒 222-0032 横浜市港北区大豆戸町 219-1-105  
電話・Fax 045-401-1852

③ 午餐会・懇話会

\* 第 505 回午餐会 25 年 9 月 7 日 (土) 正午～14 時 30 分

於 中央電気倶楽部 317 号室

講師 山崎 吉秀氏 関西原子力懇話会顧問 日本原子力学会 フェロー

テーマ 「電気事業の中での原子力ー電気という商品の難しさ」

出席者 3 理甲遺津賀美智子・15 理乙小宮山馨・山本暉郎・17 理甲 1 栗野正之

17 理甲 2 松山敏彦・山本昭夫・18 文 1 寺田信・理甲 1 遺新家和己・理乙橋田進

19 理甲 1 西川重男・理甲 3 三浦昭二郎・20 文甲本田陽一・陽子・20 文乙池口金太郎

20 文乙城野伊一郎・理 2 鶴岡誠・21 文甲 1 穎川勉二・真銅孝三・理 1 小谷剛造

21 理 1 山田茂樹・山本稔・理 2 武田晃世・前田泰敬・理 3 後藤業明・理 4 稻荷眞名

21 理 4 川島康生・西村順三・22 文甲 2 井本憲伺・理 1 菅江謹一・理 2 松浦實

22 理 3 井上達明・理 4 大路清嗣 事務局 阪田訓子 講師他 2 名 以上 36 名

\* 関東浪高会 平成 25 年 9 月午餐会 9 月 10 日 (火) 正午～14 時 30 分

於 新橋かに道楽

出席者 12 文乙平井迪郎・13 理甲蜂谷謙一・16 理 2 山田庄一・19 理甲 2 武田聡光

19 理甲 2 渡辺衡夫・理甲 4 藤田宏・21 文甲 1 徳久俊彦・文甲 2 田中昂・中川種寿

22 文甲 2 前田昭・文乙亀田一彦 以上 11 名

訃報の連絡のあった前田卯一郎氏は、平成 5 年 9 月から関東浪高会の第 5 代会長に就任され、平成 14 年 9 月までの足掛け 10 年の永きに亘り、関東浪高会の特段の発展のために多大の貢献をされ、その業績は筆舌に尽くし難いものがあった。午餐会の冒頭に、一同にて、哀悼の意を表し、ご冥福を祈念し、黙祷を捧げた。

この他に、関東浪高会の会員ではなかったが、関東在住の文化功労者の 15 文甲の谷川健一氏が死去されたことが、新聞紙上で報告された旨報告があった。同氏は、民俗学者として、在野で活躍、独自の視点により「谷川民俗学」を確立した。過去に関東浪高会の午餐会では「日本民族の民俗」と題した講話を受けた。(昭和 52 年 10 月) 続いて、各出席者より、最近の話題について、活発な発言があり、会を終了した。

④ 各地寮歌祭

\* 第 27 回洛陽寮歌祭 25 年 8 月 10 日 (土)

於 京都センチュリーホテル

参加者 19 理甲 1 津田泰男

\* 復活第九回東海学士会寮歌祭 25 年 8 月 24 日 (土) 14 時～ 参加約 100 名

於 名古屋国際ホテル

参加者 19 理甲 1 津田泰男・21 文甲 2 渡辺祐吉・節・21 文乙村田正孝・貞子

\* 平城寮歌祭 25 年 9 月 21 日 (土) 12 時～16 時

於 奈良県新公会堂

参加者 17 理甲 1 栗野正之・19 理甲 1 津田泰男・20 文甲吉川義俊夫人

20 理 2 鶴岡誠・21 文甲 2 田中昂・渡辺祐吉夫妻・21 文乙村田正孝夫妻 以上 9 名

今回は平城寮歌祭 25 年を祝して、参加者全員に紅白まんじゅうを配布した。

## ⑤支部だより

\* 関東浪高会 ③ 午餐会記事参照

\* 奈良支部 ④ 各地寮歌祭記事参照

\* 阪南支部 二木会 25年8月8日(木) 13時～ 於 堺東「Continuer」

出席者 6 文甲 遺岩根正尚・18 理甲 4 高岸宗吾・20 理 1 大塚穎三・20 理 2 鶴岡誠  
フランス料理の食事、歓談後「本店 嶋川」に移動し、デザートを味わった後散会

同二木会 25年9月12日(木) 13時～ 於 堺東「Continuer」

出席者 上記4名の他 21 理 2 武田晃世 計 5名

## ⑥同期同級交歓

\* 21 会 (21 回同期会) 第 91 回三木会 25 年 9 月 19 日 (木) 正午～ 14 時 30 分

於 大阪第一ホテル 6F ランスロット

話題提供 理 1 高折益彦 東宝塚さとう病院 名誉院長

テーマ 「我々の生活と水」

出席者 文甲 1 穎川勉二・梶谷亘・真銅孝三・文甲 2 茅野健・文乙 村田正孝

理 1 小谷剛造・高折益彦・山田茂樹・理 2 武田晃世・前田泰敬・理 3 後藤業明

理 3 竹原登・理 4 川島康生・中原充雄・西村順三 以上 15 名

## ⑦運動部・同好会だより 報告なし

### 追 慕

前田外一郎 (12 文乙) 元関東浪高会会長を偲ぶ

21 文甲 2 田中 昂

前田外一郎先輩は、平成 5 年 9 月に、直前に亡くなられた故森下富夫 (9 文甲) 第 4 代関東浪高会会長の後任として、第 5 代会長に就任され、平成 14 年 9 月に岸保芳郎 (15 理乙) 第 6 代会長に後任を託される迄の満 9 年に亘り、関東浪高会を率いて来られた。その間、強力なリーダーシップのもと、関東浪高会の発展と会員の結束のために、終始尽力され、多大の貢献をされた。平成 7 年 9 月には、浪高創立 70 年記念祭を関東浪高会としての開催に当たり、会長としての的確な指揮を執られ、続いて平成 12 年 9 月、浪高創立 75 年記念祭を関東浪高会主催により、同窓生と家族併せ出席者 120 名、来賓と友誼校 38 校 100 名の参加という盛大な記念祭を会長として再度率いられ、友誼校参加者からさすが浪高に相応しい記念祭であったと多大の賛辞が寄せられた。これも前田会長の卓越した指導力によるものであり、関東地区における、浪高の名声を更に高めることに大いに寄与された。又、当時日比谷公会堂で、例年開催された日本寮歌祭には、率先参加され、陣頭指揮のもとに、多数の関東浪高会会員が参加、浪高の存在感をいやが上にも高めることとなった。

前田元会長は、過去のことは余り話されなかったが、洩れ聞くところによれば、戦前、偕行社小学校、浪高尋常科・高等科を経て、東大仮卒業で、海軍第 4 期予備学生に志願、海軍中尉として終戦を迎えられた。戦後、江戸時代から続いた大阪での実家の造船業を廃業されて、海上自衛隊に仕官され、最終は海将補にまで栄進されて、退官されたと伺っている。

元軍人らしく、日常の姿勢は、背筋を常に真っ直ぐに伸ばして、堂々たる態度で、悠揚迫らずという、立派な挙措動作であった。

会長を終えられて同窓会本部の相談役を委嘱され、関東浪高会の午餐会、新年会に熱心に出席されていたが、その間、80 歳から始められた俳句を趣味とされて「待兼山俳句会」にも度々投句されているように伺っていた (俳名：草机)。数年前から、前立腺がんを患われ、手術の予後が思わしくなく、2 年前の新年賀詞交換会に参加されて以後、午餐会にも出席されなくなっていた。

先般、同窓会本部の鶴岡副会長から、前田元会長の突然の訃報をお聞きして、関東浪高会事務局担当者として、ご子息様に電話でお聞きした処では、その後、大腸がんを発症、最後は、食道にがんが転移し、享年 92 歳で亡くなられたのであった。父上のご遺言として、葬儀は、家族のみで行うこと、香典、供花の類は一切断れとの厳しい達しであった由。従って関東浪高会の方にも敢えて連絡しなかったとのことであった。当方より、お父上と関東浪高会は特別の関係であったことでもあり、せめて、ご霊前への供花を強く懇請したが、頑なにご遠慮されたのが実情であった。

関東浪高会会員一同として、故前田元会長に対し、深甚なる御礼と感謝の言葉を捧げ、心からのご冥福を祈念申し上げる次第であります。